



思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま

高浜市の未来を創る市民会議 各分科会

目標達成に向けた 取り組みテーマ

平成24年12月



目 次

自治推進分科会	自治基本条例の子ども向け副読本を活用して 小学校に出前授業に出かけよう！	・・・	1
財政分科会	「まちの財政を学び合う場」で 市の財政を広めよう！	・・・	2
生涯学習分科会	生涯学習に関するネットワークを 広げていこう！	・・・	3
学校教育分科会	市民や地域が関わる学校授業・行事を 「見える化」していこう！&学校の想いと 地域の想いをマッチングしていこう！	・・・	4
産業・観光分科会	高浜野菜を使った特産品をつくろう！	・・・	5
環境・憩い分科会	環境・憩い分科会の提言を実行しよう！	・・・	6
防犯・防災分科会	安心・安全が実感できるようにしよう！	・・・	7
地域福祉分科会	つながり・支え合い活動を地域に広めよう！	・・・	8
健康分科会	地域医療ネットワークを市民に周知しよう！	・・・	9

自治推進分科会の取り組みテーマ

自治基本条例の子ども向け副読本を活用して、 小学校に出前授業に出かけよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- 副読本を活用して、高浜小学校6年生を対象に、出前授業を行う。
- 出前授業を行うために、授業内容・方法（宿題の出し方含む）の検討、練習を行う。
- 出前授業実施後、来年度の全小学校実施に向けての改善を検討する。

★ テーマの選定理由・背景

- 将来を担う子どもたちに、たくさんの地域の人が、子どもたちのために、まちのために、さまざまな活動をしていることを知ってもらい、子どもたち自身も、まちのために何かできることはないかを考え、行動するきっかけをつくりたい。
- 副読本のワークシート欄を、親子で考え、記入していただくなど、家庭でも副読本を活用していただくことで、子どもを通して、その保護者である若い世代の大人にも、地域への関心、まちづくりへの関心を高めていきたい。
- 地域で実際に活動されている方が先生となることで、身近な人から身近な話を生で聞くことができ、興味を持ってもらえると考えます。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(3) 市民と行政が信頼関係を深め、ともにまちづくりを行います

財政分科会の取り組みテーマ

「まちの財政を学びあう場」で市の財政を広めよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

内容：ゲーム要素を取り入れた「まちの財政を学びあう場」を実施する。

具体的な取組内容

財政分科会のメンバーひとりずつ「財政クイズ」を考える

↓ ※この時点で、財政分科会の中で「学びあう場」となっている。

市民会議（全体会）において完成したクイズを使って分科会対抗の財政クイズを行う。

↓ ※市民会議全体での「学びあう場」となる

完成したクイズについては、今後の取り組みの中で「財政トランプ」や「財政かるた」などを作成して地域の中で「財政の正しい情報」を広めていくためのツールとして活用する。（ゲーム要素については、さらに検討していく。）

★ テーマの選定理由・背景

- ・市民会議メンバー同士が学び合い理解を深め、市民会議メンバー一人ひとりが地域での情報発信源を担っていただくことで「まちの財政を学びあう場」を地域へ広げ、高浜市民全体の「市の財政に関心のある人の割合」を増やしていく必要があるため。
- ・若年層にも、自分の住むまちの「財政」について興味をもっていただくため、ゲーム的な要素を取り入れた方が効果的だから。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(2) 次世代のために、健全な財政運営を行います

生涯学習分科会の取り組みテーマ

生涯学習に関するネットワークを広げていこう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- 地域でどのような講座が実施されているか、地域の達人(いろいろな特技や専門分野をもった人)としてどのような人がいるのか、等を調査する。[STEP 1]
→ 平成 24 年度中スタート
- 調査の内容を情報発信する。[STEP 2]
→ 平成 24 年度中スタート
- 調査内容を活用して、また、地域の達人の活躍の場を創っていくため、「まちの学校(仮称)」開催に向けて検討を進める。[STEP 3]
→ 平成 24 年度中に実行組織、平成 25 年度夏から秋に実施を検討

★ テーマの選定理由・背景

- 第2次高浜市生涯学習基本構想において、『『まなび』と行動の循環ネットワーク』を構築していくことを目指すべき姿と位置付けており、少しでもその具現化に向けて動き出す。(生涯学習に関するネットワークを広げていく。)
 - 「ネットワーク」ありきで考えると、抽象的な議論が先行してしまう可能性があるため、地域の達人の活躍の場としての講座(仮称「高浜の学校」)をセットし、具体的な動きをスタートさせ、それに関わるいろいろな人がいろいろな成功体験を得る中で、ネットワークに関わる人を増やし、高浜にふさわしい生涯学習のネットワークのあり方を探っていく。(教育委員会やまち協、生涯現役まちづくり事業などとも連携)
- ※ 生涯学習分科会の中で、「達人がいても活躍の場がなければ意味がない」、「達人が活躍できる場のセッティングが必要である」等の意見が出ている。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(4) 学びを通して人づくりを進め、夢と希望につなげます

学校教育分科会の取り組みテーマ

市民や地域が関わる学校授業・行事を「見える化」していこう！
& 学校の想いと地域の想いをマッチングしていこう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- ・目標(5)の「みんなで目指すまちづくり指標」
 - ①毎日が楽しいと感じる子ども
 - ②勉強に積極的に取り組む子ども
 - ③地域行事やボランティア活動に参加・参画する子ども
- を増やしていくために、学校の授業や行事に、地域の方たちとの関わりを取り入れていくためには、どうしたらよいか、意見やアイデアを出し合い、
(1) 市民や地域が関わる学校授業・行事を「見える化」していこう！
(2) 学校の想いと地域の想いをマッチングしていこう！
を上期の提言としてまとめた。
- ・しかし、問題提起にとどまっている面もあることから、学校現場や行事の見学等も取り入れながら、より具体的な対策案を検討していきたい。

★ テーマの選定理由・背景

- ① 市民や地域が関わる学校授業・行事を「見える化」していこう！
年間を通してどんなことが行われているか、また、学校が市民や地域からどんな力を借りたいのか情報を集め、全体像が見えるようにし、もっと発信していきたい。
<背景>
 - ・保護者以外の人には、学校を拠点に行われている行事等のことが、案外知られていない。
 - ・学校は地域の核。行事等をきっかけに、住民と住民の顔がつながりあうようにしていきたい。
 - ・“役員が終わったらおしまい”ではなく、継続して活動する人を増やしていきたい。そのためにも“関わりたい”と思える魅力・楽しさを伝えていくようにしたい。
- ② 学校の想いと地域の想いをマッチングしていこう！
学校の「こんな人材・企画を求めている」という声と、市民・地域の「こんなことが協力できるよ」という声を、調整・コーディネートする仕組み・機能を検討していきたい。
<背景>
 - ・学校の授業時間、子どもたちの活動時間は限られている。地域では子ども向けの様々な企画を実施してくれているが、学校側のニーズ・意向が必ずしも伝わってなかったり、地域の想いが学校に伝わっていないこともある。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(5) 心たくましく健やかに育つ教育環境をつくります

産業・観光分科会の取り組みテーマ

高浜野菜を使った特産品をつくろう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- ・農業まつりで高浜野菜を使った漬物の試食会を行い、アンケートをとって高浜の特産物の検討につなげる。

★ テーマの選定理由・背景

- ・特産品を育てていくには、いろいろな人に味を知ってもらったり、アイデアを求める必要がある。そこで、市内のイベントなどで試食会を行い、アンケートにより意見を集めることが効果的である。
(11月25日「農業まつり」で実施)

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(7) まちの成長を支えるエンジンとして、産業を活性化します

環境・憩い 分科会の取り組みテーマ

環境・憩い分科会の提言を実行しよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- ①分別学習の場としてエコハウスを市民に有効利用してもらう。
- ②小学生に分別拠点の立ち番体験をしてもらう。
- ③不法投棄対策を行う。

★ テーマの選定理由・背景

- ・ 第3回全体会で発表した提言を具体的に実行していきたいので、テーマは上記の3つとした。
- ①最近ではエコハウスの利用者数が伸び悩んでいる。行政連絡会等でエコハウスのPRを行い利用者増を図っていきたい。
- ②小学生に分別拠点の現状を知ってもらうことで、各家庭でのごみ分別意識の向上を図っていきたい。
- ③不法投棄の現状を、パネルで展示することにより市民にPRしていきたい。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(9) みんなでまちをきれいにします

防犯・防災分科会の取り組みテーマ

安心・安全が実感できるようにしよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

【防犯グループ】

- ・「あいさつ運動」の展開方法を検討する。

【防災グループ】

- ・「標高の見える化」の第2ステップの事業展開を検討する。
(標高サインの表示を希望するコンビニ、医療機関など、不特定の方が利用する施設に、標高サインを配布し、啓発を図る。)
- ・防災教育や大学教授、被災体験者などによる講演会の開催を検討する。

★ テーマの選定理由・背景

【防犯グループ】

- ・「あいさつ」は、防犯の第1歩、実践できるかが大切であり、「あいさつ運動」の更なる展開が必要であるから。
- ・8月～9月に実施した小中学校での「あいさつ検証調査」で、学校毎の、あいさつのできる割合にバラツキがあったため、その改善(割合の向上)も必要であるから。

【防災グループ】

- ・標高の見える化(標高サイン)として、電柱や避難所以外にも標高サインを表示し、更なる啓発活動を行う必要があるから。
- ・「市民意識調査」において、10歳代の78.5%が、防災の備えに対し、どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答しているため、目標達成のためには、この10歳代に対する取り組みが必要であるため。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(12) 安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます

地域福祉分科会の取り組みテーマ

つながり・支え合い活動を地域に広めよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- わくわくフェスティバルにおいて「Newボランティア人」の宣言をしていた市民の方に認定書を配布するとともに、この取り組みを常時いきいき広場で行うなど、「Newボランティア人」を地域に広める活動を実施する。
- 子どもから高齢者まで、障がい者も一緒になって楽しめるスポーツ「ボッチャ」を地域に広めるため、わくわくフェスティバルにおいて「ボッチャ」の大会を開催するとともに、「出張ボッチャ教室」を地域を巡回して定期的実施する。
- 避難所運営訓練や炊き出し訓練など、障がい者や高齢者も地域の方たちと一緒に参加できる訓練を、関係団体や市民会議メンバーへの協力を働きかけ実施する。

★ テーマの選定理由・背景

- 昨年度「Newボランティア人」の認知のためのアンケートを実施し、一人ひとりが日ごろ心がけていることが地域での支え合いにつながることを認識できた。この結果から、さらに「Newボランティア人」の認知度を高め、地域の支え合い活動を広めていく必要がある。
- つながりを深めるためのきっかけづくりとして、子どもから高齢者まで、障がい者も一緒に取り組むことができ、交流が図れる新たなイベントを創出する必要がある。だれでも簡単に楽しめる「ボッチャ」はコミュニケーションツールとして最適である。
- 障がい者や認知症高齢者が災害時に自然に受け入れられる地域づくりに向けて、昨年度開催した「防災フォーラム」などの災害時要援護者支援に関する取り組みを今後もつなげていくことが大切である。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(13) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

健康分科会の取り組みテーマ

地域医療ネットワークを市民に周知しよう！

★ 具体的な取り組み(検討・実行)内容

- ① 健康分科会メンバーで「地域医療ネットワーク事業」を広げるアイデアを考えよう。
- ② 「地域医療ネットワーク事業」を市民に周知していこう。(PR活動)
- ③ 「地域医療ネットワーク事業」の市民周知の一環として、初めに「広報」に掲載します。
- ④ 今後「地域医療ネットワーク事業」の市民周知を健康づくり推進委員等の活動やフェスティバル等にて実施していきます。

★ テーマの選定理由・背景

「一人ひとりの元気と健康づくりを応援」を目標に、以下の取り組みを考えてきました。

- ① 地域医療ネットワークを知ろう・かかりつけ医を持とう。
- ② 「いきいき健康マイレージ」口コミ作戦の開始・マイレージ実践者の声を広めよう。
- ③ 地域の事業に積極的に参加しよう。

②は登録者も増加し、広報等の周知も行ってきました。

③については、まちづくり協議会、各種団体、NPOの活動として広がりがつあります。

①については、現在ネットワークの接続が始まり、今後広く周知していく必要があります。

★ 総合計画基本計画の目標との関連

目標

(14) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します